

<p>参加賞 こゝろあてにをらばや をらんはつしもの おきまどはせる しらぎくのはな</p>	<p>あきのたのかりほの いほの ともあらみ わがころもては つゆにぬれつ、</p>	<p>をぐらやまみねのもみぢば こゝろあらば いまひとたびの みゆきまたなん</p>	<p>流幸 をぐらやまみねのもみぢば こゝろあらば いまひとたびの みゆきまたなん</p>	<p>流羽山 つくばねのみねより おつるみなのがわ こひぞつもりて ふらとなりぬる</p>	<p>ふらとなりぬる 七扇 九扇</p>	<p>ふらとなりぬる 七扇 九扇</p>
--	--	--	---	---	------------------------------	------------------------------



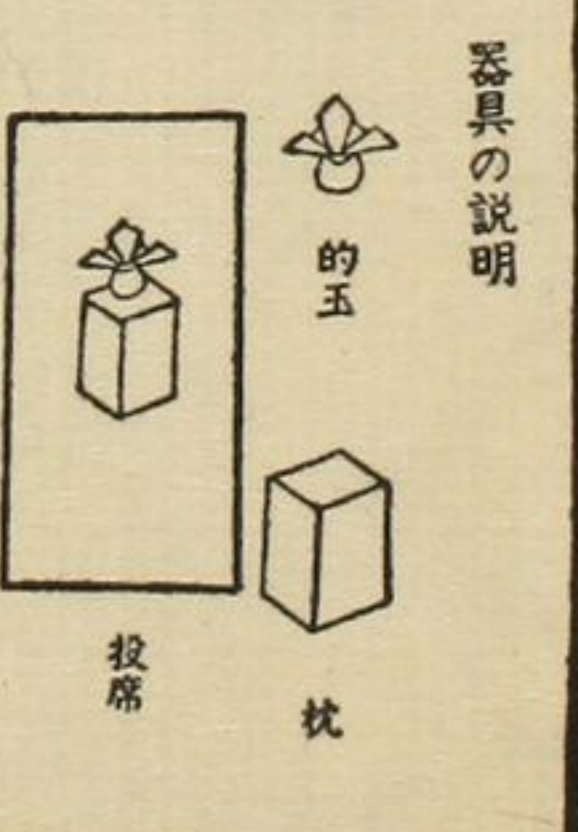
# 曲扇興圖式

安永二癸巳年 初春  
皇都 玉勢堂里水

江戸中期安永年間其扇なる人午睡よりさめ一羽の蝶枕の上に止まるを見て傍の扇を取り投げたるに扇は枕の上に残り蝶は舞い上り、そのさまいと優雅なると見て遊戯法を創案すると或はそれ以前正徳の頃宮中より起るとも伝えております。

当安永刊の曲扇興は最古式で礼法は凡て四季十二ヶ月、百人首に因みまことに風流であります。古風文李を現代風に読み易く、戲法も簡単に修正を施し再刊しました。

京都花月扇記



- ### 曲扇礼式
- 一、枕と着席の間隔は扇の丈四本分を取
  - 二、先投、後投を定め互に扇をかまへ
  - 三、扇の持様図の如く扇の要の処をつまみ持ち、ひぢを の下え付け投げる
  - 四、投げること十二回を以て満投とす
  - 五、別に記録者は点数を記す

- ### 採点法
- 一、投げた時の玉、扇、枕の姿により点数表を見て記録す
  - 二、先づ最初に参加賞として三点（初箱の歌）を貰う
  - 三、過料は減点、不中扇は零点、点数表になきものは表に準じて採点す
  - 四、最初と最後が同点なれば賞として五点を加算す
  - 五、十二回完投すれば敢斗賞として二点（松山の歌）を加算、統計して勝負を決す

山嵐 過料



わがころもては  
つゆにぬれつ、

十一扇

をぐらやまみねのもみぢば

こゝろあらば

いまひとたびの

みゆきまたなん

的玉例れ  
八扇

十扇

筑羽山

つくばねのみねより

おつるみなのがわ

こひぞつもりて

的玉例れ  
七扇

九扇

あはぢしまかよふ

ちどりのなくこゑに

いくよねぎめぬ

すまのせきもり

的玉例れ  
六扇

八扇

富士

たごのうらにうちいで

みればしるたへの

ふじのたかねに

的玉例れ  
五扇

七扇

あまのはらふりさけ

みればかすがなる

みかさのやまに

的玉例れ  
四扇

六扇

あさばらけありあけの

つきとみるまでに

よしの、さどに

曲扇遊會式之由



- 三、扇の持様図の如く扇の要の処をつまみ持ち、ひらを の下え付け投げる
- 四、投げること十二回を以て満投とす
- 五、別に記録者は点数を記す

採点法

- 一、投げた時の的玉、扇、枕の姿により点数表を見て記録す
- 例、点数表の三扇は三点なり
- 二、先づ最初に参加賞として三点（初箱の歌）を貰う
- 三、過料は減点、不中扇は零点、点数表になきものは表に準じて採点す
- 四、最初と最後が同点なれば賞として五点を加算す
- 五、十二回完投すれば敢斗賞として二点（松山の歌）を加算、総計して勝負を決す

山嵐 過料

うかりけるひとを  
はつせのやまおろし  
はげしかれとは  
いのらぬものを

ちかんど 日

めぐりあひてみしや  
それともわかぬまに  
くもかくれにし  
よはのつきかな

とくお 日

かさ、ぎのわたせるはしに  
おくしもの  
しろきをみれば  
よぞふけにける

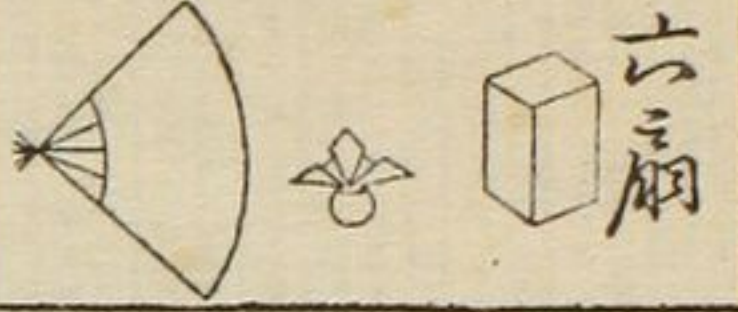
むらさめ 名

むらさめのつゆもまだ  
ひぬまきのはに  
きりたちのぼる

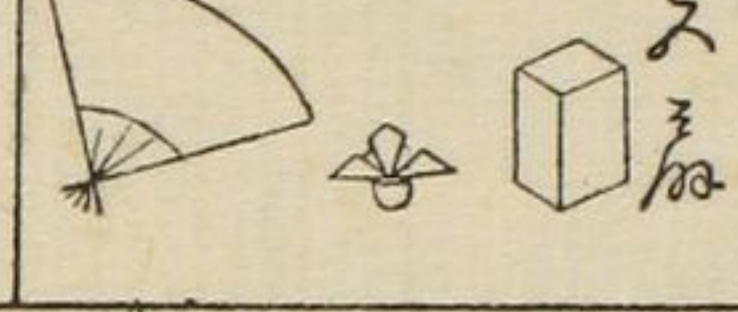


いでしつきかも  
玉倒れ  
四扇

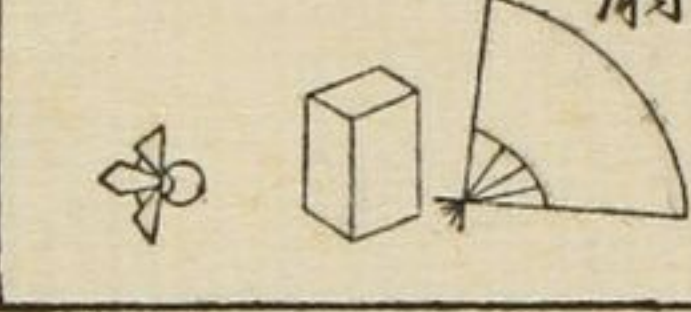
あさぼらけありあけの  
つきとみるまでに  
よしの、さとに  
ふれるしらゆき



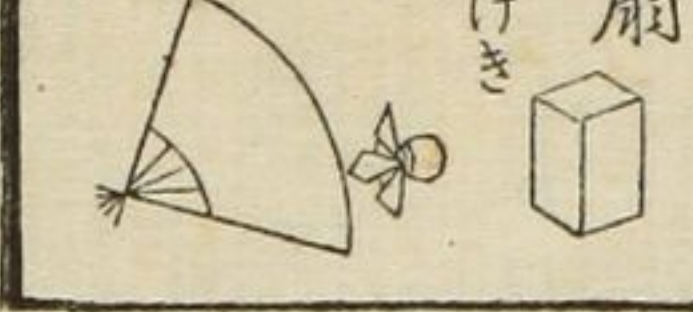
あらしふくみむろの  
やまのもみぢばは  
たつたのかはの  
にしきなりけり



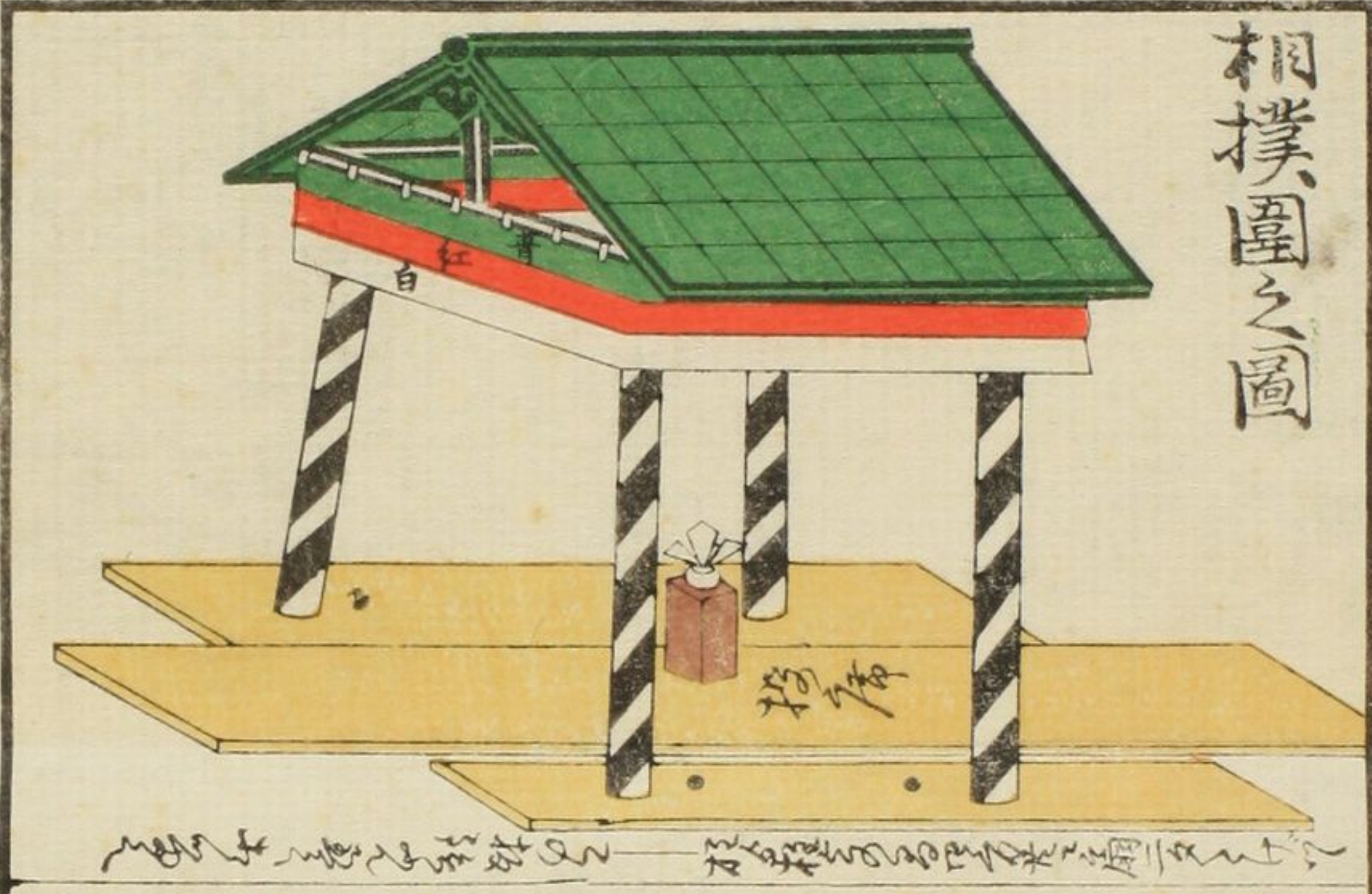
しらつゆにかぜの  
ふきしくあきの、は  
つらぬきとめぬ  
たまぞちりける



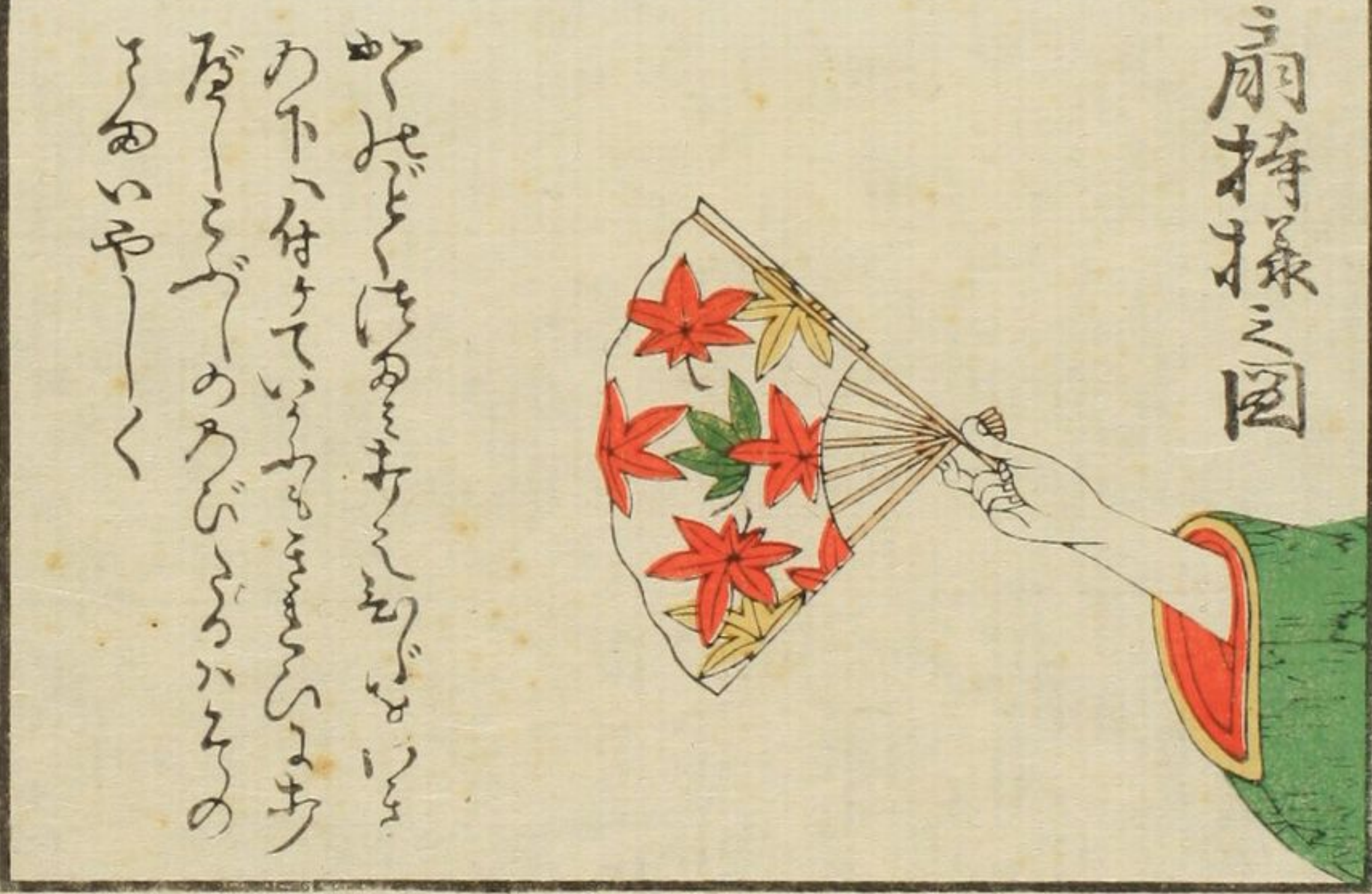
ひさかたのひかりのとけき  
はるのひに  
しづこ、ろなく  
はなのちるらん



相撲園之圖



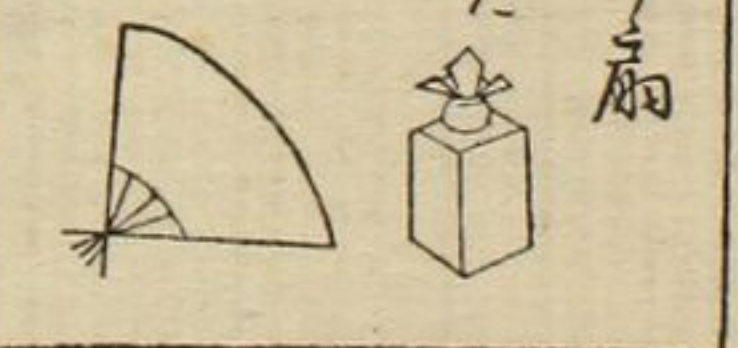
扇持孫之圖



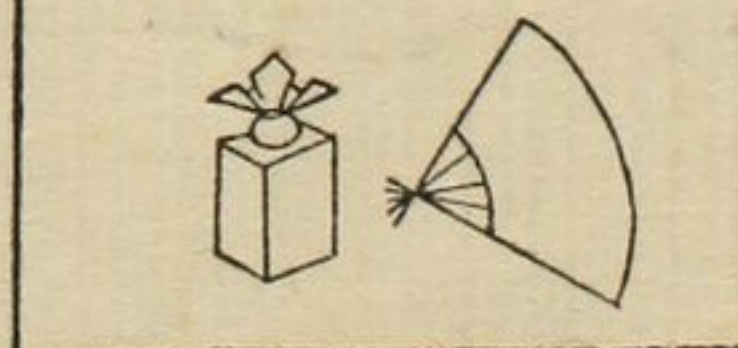
あきばはらけありあけの  
つきとみるまでに  
よしの、さとに  
ふれるしらゆき

しろきをみれば  
よぞふけにける

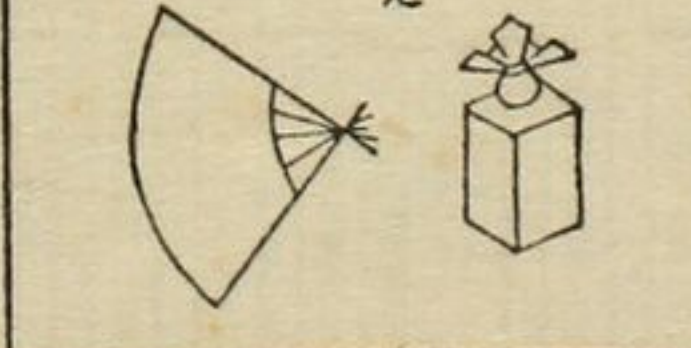
むらさめのつゆもまだ  
ひぬまきのはに  
きりたちのぼる  
あきのゆふぐれ



おとにきく  
たかしのはまの  
あだなみは  
かけじやそでの  
ぬれもこそすれ



ゆらのとをわたる  
ふなびとかちをたえ  
ゆくえもしらぬ  
こひのみちかな



ちぎりきなかたみに  
そでをしほりつ、  
すゑのまつやま  
なみこきじとは

